



特別医療法人高明会
西宮渡辺病院

〒662-0863 西宮市室川町10番22号
TEL:0798(74)2630 FAX:0798(74)7257
ホムペーｼ http://cvnweb.bai.ne.jp/~nw-hosp/

2005.1.1

vol.16

あけましておめでとうございます

院長 渡邊 高

新年、おめでとうございます。

昨年は、鳥インフルエンザから始まり、台風による水害、新潟県中越大地震など、多難な一年でした。特に新潟県中越地震は、阪神淡路大震災のような都市破壊・人災数の規模の大きさはありませんでしたが、過疎・山間・谷間の震災として違った意味で大変なものであり、そこで生活される方々の被害は甚大でした。早期の復旧を祈ってやみません。

医療界においても、昨年は激動の一年でありました。平成15年8月までに病床区分(一般病床・療養病床)の届出が行われ、昨年4月大きな診療報酬改定が行われました。そこでは、病院の役割・分担に明確な方向性が求められており、医療の改革と同時に、病院医療の質の向上も求められています。病床区分としては、新たに亜急性期病床が新設され、在宅医療を促進すべく、当院でも当初より導入し、急性期を終えられた患者さまが安心して自宅へ退院できるよう、当病床を利用して頂いております。

このような厳しい社会情勢・医療情勢の変化の中で、私共の病院は逆風にもめげず、使命と役割を果たしながら、新年を迎えることが出来たと自負しております。

本年は、21世紀に入って力を注いできた生活習慣病対策

に、腰痛や骨粗鬆症・リウマチなどの生活機能病への対策を加え、互いに欠かすことのできない車の両輪のように、予防を考えた病院医療を推進し、健康増進・検診・治療を行っていききたいと思います。

介護が必要な老年期の方が多くなる高齢化社会ではなく、健やかで明るく楽しく満足した老後を送る方々が増える、健康長寿の高齢化社会とすることを目標として、当院は今年も、地域に根ざした病院医療を展開していきたいと考えています。

そのために、以下の4つを計画・実行していきます。どうぞ、ご期待ください。

患者様が安心して医療を受けられるよう、個人情報保護を重視した健康戦略プラン(健康手帳の配布)
患者様が安心して心配事を相談できる医療相談
社会資本の発見・提供による、専門性を活かした医療相談<よろず相談>

(公的福祉医療サービス情報の提供)

患者様に納得・安心して医療を受けて頂くための、セカンド
オピニオン制度導入
に向けて計画



★ 平成16年度症例発表会を行いました ★

昨年11月13日に、医療経済を統一テーマとした看護部症例発表会を開催しました。

各部署とも、日常業務の中で問題に感じている事に取組んだことで、看護職員もコスト意識を持って医療に従事することが重要であるという認識を持つことができました。

<外来>	エレバンショットの利用を始めて ～紙テープとの比較～
<ICU>	針刺し事故と経済 ～当院における針刺し事故の実態調査～
<2病棟>	オムツの使用状況の工夫による コストの削減について
<4病棟>	看護師の医療保険に対する意識調査
<5病棟>	業務改善
<6病棟>	看護とコスト ～翼状針を例にあげて～
<手術室>	消毒方法と消毒液の消費量 ～看護業務の見直し～
<訪問看護>	介護予防に向けた指導と効果



・ 転倒むし で転倒予防

病院・施設内では、転倒・転落事故の発生が地域の3倍だと言われています。これは、患者様の易転倒性(高齢・疾患・障害)に、筋力の低下・薬剤の影響・療養環境の変化が重なる結果だと思えます。

この度当院では、患者さまがベッドから移動し転倒する前に感知する装置を、自己作成し使用を始めています。

11月9日の使用開始以来、20時から翌朝8時までのベッド周りでの転倒・転落事故は1件も発生していません。

当院は今後も、患者様に安全な環境で療養して頂けるよう努力していききたいと思います。



新年あけましておめでとうございます 本年もどうぞよろしくお願いたします

医局 佐々木 健陽

平成6年に新しくなった病院も、はや10年を迎えましたが、その10年の間に、日本の高齢化もどんどん進行しています。

平均寿命は驚異的な伸びをみせ、現在の70歳女性の平均余命は約20年、男性は15年です。

余命がそれだけ伸びたということは、70歳を過ぎた高齢の方々も、介護保険などを利用しながらまだまだがんばらなくてははいけません。そして、まだまだ人生を楽しまなくてははいけません。

暦の年齢は年々増えますが、肉体年齢は維持する事が可能です。そのためには、日頃の体へのいたわりとメンテナンスが重要です。年初にあたって、気になるところを一度検査してみてもはどうでしょうか？

これからも楽しく人生を過ごしたい、旅行に行きたい、孫と一緒に遊びたいと思っていられる皆さん、どうぞ、お気軽にご相談下さい。



ICU 師長 田中 ひとみ

急性かつ重篤な患者さまに対して、幅広い知識と技術をもって、心身両面の看護と、家族の精神的ケアを行っていきたくと思います。

臨床検査室 林 安行

昨年は、肺血栓症・深部静脈血栓症に対する対策・予防の一貫への臨床検査室の取り組みとして、静脈血栓症の診断に役立つD-Dダイマーの院内検査実施を行いました。また、学会発表(日本医学検査学会 富山)も行うなど実りの多い年でした。

本年は、3月までに心不全予後の指標としてのBNPの院内検査実施も予定しています。

今年も、西宮渡辺病院内の臨床検査室として、薬物血中濃度の問題など、外部委託に頼らない迅速で価値在るデータを提供できる臨床検査を目指します



看護部

副部長 今西 さえ子

本年看護部は、看護師の臨床看護能力を高めるために、実践の場のケアを通して学んでいける仕組みを充実させていきます。

外来師長 大池 由岐

昨年に引き続き、患者さまに適切な治療を気持ちよく速やかに受けて頂けるよう、看護師一人一人がさらにスキルアップを目指していきます。

2病棟師長 諸根 康

患者さまやそのご家族と、十分なコミュニケーションをとりながら信頼関係を築いていき、患者さまが安心して療養生活を送れるよう、心の通い合う看護・介護の提供に努めていきたくと思います。

4病棟主任 植田 朝子

急性期の患者様に、今何が必要かを考え行動できるよう、スタッフ一同努力していきたくと思います。また、気持ちにゆとりを持って、温かい看護を提供していきたくと思います。

5病棟師長 堀田 礼子

各人が専門職としての自覚をもとに、安心と安全を考えた看護サービスが提供できるよう、実践に臨んでいきたくと思います。

6病棟主任 原島 由美

どのような状況下においても、常に笑顔を決やさずに、温かみのある看護を提供できるよう努力していきたくします。



放射線科 和氣 利充

昨年3月末に新しいCT(フィリップス社製16チャンネルMDCT)を導入し、高画質の画像・短時間撮影が可能になり、CTでも心臓の血管(冠動脈)の撮影が可能になりました。これにより、今までの心臓カテーテル検査に加え、冠動脈疾患に対する検査の選択肢が増えました。

6月にはMRIのバージョンアップを行ない、画質向上と撮影時の音量が軽減され、10月には一般撮影でデジタル化(FCR)を導入しました。

本年は、一般撮影のデジタル化を生かして、迅速で診断価値のある画像を提供していき、CTでも早期かつ正確な診断に貢献し得る冠動脈検査を行っていきたくと思います。そして、新しい撮影機器とそれに見合う技術を背景に、放射線科としての役割を果しながらチーム医療に貢献していきたくと考えています。

今年も、患者さまに信頼される放射線科として、頑張っていきます。



居宅介護支援センターむろかわ

吉川 光江

利用者さまや御家族と十分に話し合い、納得・満足して頂けるケアプラン作成とその評価を充実させ、今年も自分のペースで努力していきたくします。



各部署より、 新年のご挨拶を申し上げます



リハビリテーション科 塩田 智之

当院は、昨年11月、総合リハビリテーション施設の認可を受けました。

これまでも、患者さまを中心としたチームアプローチを心がけておりましたが、今後はさらに質の向上を念頭に置き、患者さまおよび他のスタッフとの関わりを深めていきたいと思っております。

また、当院は急性期の病院ですが、急性期のその時期にのみ対応したリハビリテーションではなく、患者さまの持っていらっしゃる能力を最大限引き出せるような機能的リハビリテーションを心がけ、患者さまが安心・納得できる支援を行っていききたいと思います。

2005年もリハビリテーション科は一丸となって頑張っていきます。



栄養課 岩泉 佳代子

2005年を迎えての栄養課の抱負は、“患者さまの栄養管理がより適切にできるよう努めていくこと”です。

フードサービス部門(給食)においては、褥瘡対策や栄養サポートのための栄養補助食品や濃厚流動食を検討し、試用期間を設けながら新しいものを考えていきたいと思っております。

クリニカルサービス部門(栄養指導)においては、人間栄養学を基本とし、入院・外来共に生活習慣病を中心に、栄養指導の充実を図りたいと思っております。



グループホームむろかわ

岡田 實

グループホームむろかわは、昨年11月に満1年を迎えることができました。地域の皆様方の暖かいご支援の賜物と、職員一同感謝いたしております。

1年を振り返り、遠足やお花見、夏祭りなど様々な行事を開催してきました。また、地域自治会主催の盆踊りやコンサート鑑賞にもお誘い頂き、入居者の皆様ともども喜んでおります。今後もより一層、地域の皆様との交流の機会を持たせて頂きたいと考えております。

一方、外部機能評価機構によるグループホーム評価を昨年10月26日に受審致しました。この受審を通じて、スタッフが一層成長を遂げたのではないかと実感しております。今後も外部の研修会などに出来るだけ参加し、日々変化・発展を遂げている介護を学び、それをホームに持ち帰って実践に生かしていくことで、入居者の皆様に喜ばれるホームを創造し続けていく所存です。



薬剤部 仁田 友香子

医薬分業が行われるようになって3年が過ぎ、業務も安定してきました。

昨年度は、化学療法への積極的な参加や、病態に応じた薬物投与設定の参画を目的としたTDM(薬剤の十分な治療効果と副作用の軽減のために、個々の患者さまに対して投与された薬剤の血中濃度の推移を測定し、血中濃度が有効濃度に保たれるよう、投与量・投与速度を調整すること)の充実など、特殊治療への密な関与と情報収集に力を入れてきました。

昨年11月には、新しいメンバーも加わり、本年も引き続き、個々の知識向上・全体のスキルアップを行っていきたく考えています。特に本年は、専門教育に力を入れ、特殊治療の混注業務(正確かつ衛生的な薬剤投与を行うこと)に重点を置き、チーム医療への参画はもちろんのこと、患者さまにより質の高い医療を提供できるように努めていききたいと思います。



事務部 山岡 泉

事務部門は、1階の医事課と3階の総務課の、2つに分かれています。

病院における事務部門の役割は多岐にわたっており、外来受付・会計窓口など患者さまと第一線で接する部門、入院や外来の診療報酬請求事務を行う部門、また用度・物品管理・人事・経理・庶務といった部門等があり、縁の下の力持ちとして様々な業務を行っております。

『医療は高度な学問に立脚したサービス業である』ということに常に忘れず、患者さまが安心して療養していただける環境作りと、職員が生きがいを持って働ける職場環境作りを念頭におきながら、事務部門一同2005年も日々努力を続けていきます。



訪問看護ステーションむろかわ

松原 照美

訪問看護ステーションを開設し、今年で6年目となりますが、昨年秋には新しいスタッフも加わり、より一層のサービス向上にと日々努力しています。

ご家庭を訪問させて頂くと、在宅が利用者さまにとって、何より心地良い場所だということを再認識します。

利用者さまとその御家族が安心して在宅療養を継続できるよう、今年も選ばれるステーションを目指して頑張りたいと思っております。



～すこやかな老後は毎日の生活習慣の積み重ねから～ 生活習慣病について一緒に考えてみませんか？

皆さんは、『生活習慣病』という言葉をご存知ですか？
生活習慣病とは、従来の『成人病』という言葉が発展・変化したもので、食習慣・運動習慣・睡眠・喫煙・飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群と規定され、高血圧・糖尿病・高脂血症・動脈硬化症・がん・循環器疾患などが含まれます。簡単に言うと、若い頃からの日常生活のあり方や良くない習慣を繰り返すことで、病気の根がだんだんと広がっていき、ある年齢に達すると症状が出てくる病気のことです。

生活習慣病は、それ自体が疾病であるだけでなく、他の重大な合併症を引き起こす大きな要因にもなります。

下記は、心臓の冠動脈疾患（狭心症・急性心筋梗塞・急性冠症候群）と、高血圧・糖尿病・高脂血症の既往症との関係をグラフにしたものです。

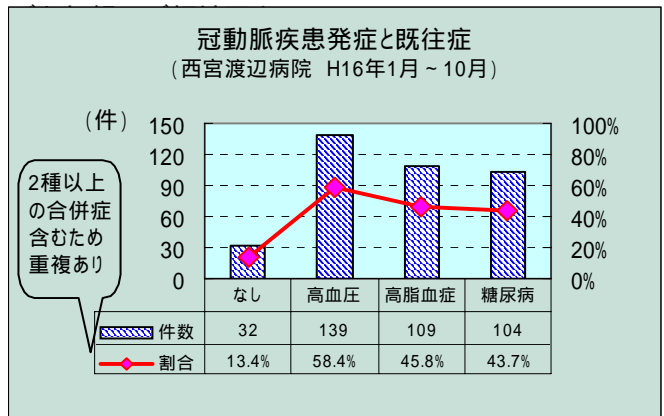
見て頂くとお分かりのように、高血圧の既往のある方は、既往のない患者さまと比較し、冠動脈疾患に対して4倍以上ものリスクを抱えていることとなります。同様に、高脂血症や糖尿病も大きなリスクとなっています。

生活習慣病は、自覚症状がはっきり現れた時には病気はすでにかなり進行しているものが多く、一度病気になると完全に治癒する事は難しく、生涯にわたる治療

が必要と言われていています。しかし、診断された時点で生活習慣を改めることで、進行を遅らせたり合併症の出現を未然に防いだりする事がある程度可能でもあります。

当院は5年前に生活習慣病学習センターを設立し、検診・予防・診断・治療の4本を柱として、学習会や研修会、講演会・教室等を開催し、生活習慣病に立ち向かうべく幅広く活動しています。また当院では、昨年3月に16チャンネルのマルチスライスCTを導入し、発症前に発見する事が難しいとされていた**心筋梗塞・脳梗塞**などの小さな病変を発見することが可能です。

生活習慣病について、お悩みや相談がある方は、どう



身体をはって呼吸器機能障害をのりこえて ～酸素ボンベよさようなら～

阪神淡路大震災後の再建が未だなされない頃、近医の紹介状をお持ちになって、当院を受診されたのがMさんとの最初の出会いでした。この時より、震災のダメージによる頭痛や精神的混乱状態、そしてゴミだらけの街でおこる呼吸困難と喘息発作との闘いが始まりました。

高血圧や軽い脳梗塞、またパーキンソン病による手足の震えや発語障害もあり、他の病院で入退院を繰り返しておられたMさんの当院での治療が、平成13年5月より始まりました。それは、お一人での生活の中、強くなっていく呼吸不全・肺気腫との闘いで、酸素ボンベが手放せない生活の始まりでした。

夏休み九州へ帰郷するたび元気になって戻ってこられ、『住み慣れた九州の空気はおいしかった』とおっしゃられていたMさんでしたが、今年の7月からの入院は、重い喘息発作が続き、死をも覚悟されたものでした。しかし何回かの死線乗り越えられ、ようやく急性期病棟より療養病棟へ移ることができました。そして、酸素吸入なしの呼吸訓練が開始されたのです。

Mさんにとって、呼吸リハビリテーションと全身的な

回復を目指したパワーリハビリテーションは大変なものでした。しかし、老いて臥して死を待つのではなく、死線乗り越えた喜びと心意気を背景に、寸刻を惜しんで呼吸リハビリテーション・パワーリハビリテーションを続けられました。病棟の看護師や担当理学療法士もMさんを励ましましたが、リハビリテーションは自分に課されたもので、自分自身が努力しなければ何なりません。だからこそ頑張られたMさんは、リハビリテーションが機能改善・増進に寄与することを身を持って体験されたと思います。こうして、自宅へ帰るまでの健康を取り戻されたMさんの喜びは、病院の喜びでもあります。

Mさん、お元気になられての退院、本当におめでとうございます。私達は、あなたの頑張りりと勇気を心より称えたいと思います。
(院長 渡辺高)

Mさんのご好意によって、5台の車イスを病院に寄贈していただきました。車イスの増加により、患者さまのリハビリへの出頭がスムーズになり、病院職員一同感謝しております。本当にありがとうございました。

2004年職員慶事（結婚）



4月 グループホーム介護士	原 洋一郎	10月 看護師	木村 涼子 (旧姓: 森田)
5月 看護師	羽根 智子 (旧姓: 矢野)	10月 臨床工学技師	竹内 亮
6月 福祉ワーカー	石田 仁	10月 看護師	竹内 祐妃 (旧姓: 岡竹)
6月 保育士	石田 有希子 (旧姓: 岡村)	12月 看護師	飯西 亮介



むろかわNews に対する皆様よりのご意見・ご感想をお待ちしております。

当院各階詰所・1F 出入口に設置しております「ご意見箱」をご利用ください。